

# インシチュアテックと

## データマネジメント

### 【第4回】データ活用のためのカタログ作成

KPMGコンサルティング株式会社  
ITリスクマネジメント ディレクター 津田 圭司

#### 1. データ利活用の拡大に伴って顕在化した問題

前回の連載でふれたようにビジネスインテリジェンス(BI)ツールの普及やデータ基盤整備の進展により、データ分析は身近なものになりつつある。データ分析は一部の「専門家」による「特別な活動」から、「普通の活

動」として、日々の業務に根付き始めている。データ活用による成



【津田圭司(つだ・けいじ)氏のプロフィール】情報システム監査技術者。金融機関系のシステ

ム会社等を経て、2000年にKPMGに入社。金融機関におけるデータマネジメントアドバイザーに従事。データ活用・管理をテーマに、様々なアドバイザーを大手銀行、証券会社、損保会社、クレジットカード会社に提供。代表的なプロ

ある企業では、事故現場写真から損傷度合いの判定や責任分担を判定する取り組みを試みようと、過去の事故現場写真データを大量に必要になった。しかし、情報システム上のデータの所在や一括での入手のために情報システム部門や関係部門との調整に多くの時間を費やしてしまった。また、ある企業では、利用者から、データの所在や属性情報等の問い合わせが増加したため、問い合わせに対応する専門の部隊であるデータコンシェルジュを設置した。しかし、さらに利活用が進んだ結果、データコンシェルジュは増大する問い合わせに対応しきれなくな

った。また、ある企業では、写真から損傷度合いの判定や責任分担を判定する取り組みを試みようと、過去の事故現場写真データを大量に必要になった。しかし、情報システム上のデータの所在や一括での入手のために情報システム部門や関係部門との調整に多くの時間を費やしてしまった。また、ある企業では、利用者から、データの所在や属性情報等の問い合わせが増加したため、問い合わせに対応する専門の部隊であるデータコンシェルジュを設置した。しかし、さらに利活用が進んだ結果、データコンシェルジュは増大する問い合わせに対応しきれなくな

#### 2. データカタログとは

このような問題を解決するために、自社が保有するデータの中身や所在を棚卸し、利用者に公開する仕組みの構築が有効である。このような仕

組みをデータカタログ(以下「カタログ」と呼ぶ。カタログには、必要なデータの定義、形式、要素、来歴、物理的な情報システム/データベース上の所在等が格納されている。データの利

用者が必要とするデータのキーワードを入力すると、その条件に近いデータの一覧を返してくれる仕組みである。また、カタログ上でデータの所在や利用にあたっての調整先を管理しておけば、調整のための業務負荷は大幅に軽減される。さら

に、問い合わせ者がカタログを利用するため、データコンシェルジュの負荷は大幅に軽減される。あわせて、カタログ作成の過程で、類似するデータ間の定義やデータ様式等の差異が判明するた

図表1

データカタログの観点	主な構成要素
ビジネスの観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ用語定義</li> <li>データモデル</li> <li>業務プロセスフロー</li> <li>業務オペレーション処理ルール</li> </ul>
テクノロジーの観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>構文/コード体系</li> <li>テーブル名/カラム名/スキーマ</li> <li>データシステム/データベース</li> <li>データフロー</li> </ul>
マネジメントの観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>データに係る役割と責任</li> <li>データオーナー、データユーザー</li> <li>データ共有ルール</li> </ul>

め、グループ会社からデータを統合するケースでのスピードアップにつながる材料を得ることができ

#### 3. データカタログの整備

カタログの内容は大別すると、「ビジネスの観点」「テクノロジーの観点」「マネジメントの観点」の三つの観点から作成される(図表1参照)。ビジネスの観点とは、当該データ項目が業務上、どのような意味をもち、どのような取り扱いをされているかを定義

する。また、この条件に近いデータの検索を返す仕組みである。また、カタログ上でデータの所在や利用にあたっての調整先を管理しておけば、調整のための業務負荷は大幅に軽減される。さらに、問い合わせ者がカタログを利用するため、データコンシェルジュの負荷は大幅に軽減される。あわせて、カタログ作成の過程で、類似するデータ間の定義やデータ様式等の差異が判明するた

#### 4. データカタログの維持管理

カタログは最新の状態を維持できなければ、その価値は毀損されてしまう。カタログを最新の状態に維持していく上で重要なのは変更管理である。業務の見直しやシステム変更により、データの定義や属性が変化した場合、その情報を適時にカタログに反映することが必要になる。さらに、影響が及ぶ利害関係者の範囲を特定し、個々のデータ活用への影響を見極めなければならない。このようにカタログの維持には組織横断的な取り組みが必要となる。

このようにカタログが整備された際にはデータの利活用が大幅に効率化することはわかっていて、その構築にあたり、一定の業務負荷が各部門に発生するため、費用対効果を見極めながら、中期的かつ全社的な視点でカタログ整備を推進するための組織的な取り組みが不可欠となる。

(つづく)